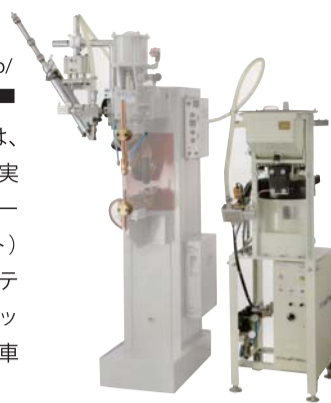


3

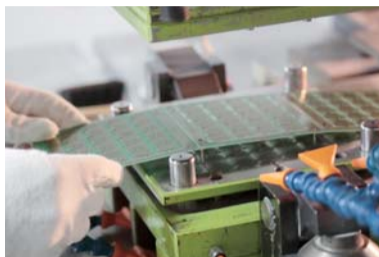
時代の最先端を走る自動車メーカーを  
的確な提案力と高い技術力で支える！

株式会社テクノアオヤマ  
堺市中区深阪 1931-1  
TEL.072-234-3320  
http://www.t-aoyama.co.jp/



世界の自動車生産ラインへシェアを拡げる、部品自動供給装置の専門メーカー、株式会社テクノアオヤマ。業界からの厚い信頼は、現場から出た課題にピンポイントで応える提案力、それを形にする確かな技術力の賜物だ。永久磁石の力を利用してボルトを確実に保持し運ぶ自動供給機器が好評を得ていた同社に「運んだボルトの溶接作業を改良したい」という現場の声が届く。従来のアーク溶接という方法が、自動車の軽量化で薄くなった鋼板に接合しにくくなり不良品が増えていた。そこで当社は「抵抗(スポット)溶接」の機能を自動供給機器に組み合わせた現在の主力製品「スタッドボルトフィーダー」を開発。シンプルな構造で作業やメンテナンスが効率化、溶接品質も大幅にアップし、不良品激減によるコストダウンも実現した。代表取締役の青山省司氏は「世界のトップ企業からの高品質、安全最優先等の厳しい要請に独自の技術で応えていく、そこに喜びを実感します。ハイブリッド、電気自動車の次は何か。ものづくりに変化が起きた時にもフレキシブルに対応する力が必要です」と次代を見つめる。

4



平成24年度  
ものづくり  
イノベーション支援  
プロジェクト  
認定

株式会社藤原電子工業  
八尾市南木の本 2-51  
TEL.072-991-3927  
http://www.fdk-ltd.jp/

5



三彩化工株式会社  
大阪市北区大淀中 3-5-30  
TEL.06-6451-7851  
http://www.sansai.com/

「あきらめない」ものづくり魂で、  
高品位なプレス加工を実現！

創業20年、藤原電子工業は精密機器に使用されるプリント基板のプレス加工と、そのための金型製作で実績を重ねてきた。同社のSAF工法は、プレス加工につきものの断面のバリや細かいホコリの発生をなくし、不良品発生率を大幅に抑える技術。断面を切削するルーター加工を施せばバリをなくせるが、加工時間が掛かりコスト高になってしまう。SAF工法の革新性は、ルーター加工並みの高品位な仕上がりをプレスのみで実現する点にある。

業界の中で一步抜き出る同社の技術は、藤原義春社長のものづくりのスタンスから生まれた。「言い訳、愚痴、責任転嫁。これは人間の弱点の3点セット。同時にそこには成長のチャンスが隠されている。『プレス加工だからこの程度でいい』『ルーターを使う予算がないから仕方がない』。そんな気持ちの裏には、本当は満足しておらず、より良い製品を作りたいという欲求がある。そこに気づけば改良・改善の気運が目覚めます」。こうした持ち前の「あきらめない」ものづくり魂は、オリジナル商品の開発にも込められている。

ニッチな事業でインフラを支える  
「はく離」専門カンパニー。

鉄道、自動車、航空機、建築物などに施される塗装は、物体を保護し、美しく見せる効果があるが、検査や補修のため一定期間ごとに塗装が剥がされていることは意外と知られていない。三彩化工株式会社は塗料をはがすために使用する“はく離剤専門メーカー”というニッチな分野で事業を展開。塗料、素地、塗装状況、気温など多面的な条件で適切なはく離剤が決まるが、「どの分野、どんな状況の作業にも適応するはく離剤を開発し、供給できるのが当社の強み」と水野富夫取締役営業部長は言う。はく離は金属やコンクリート素地のものに限らない。現場での指導を数多く手がける山岡信雄大阪営業所長は「木材の素地を傷めないよう配慮しつつ、京都御所など文化的建築物の塗膜はく離もやりました」と振り返る。同社は環境にやさしい製品の研究・開発を継続的に行っており、その成果であるネオリバー「非ジクロロメタン系」が現在の主力製品。橋梁の塗り替え需要が見込める今後5年間はそに対応に注力し、機を見てケミカル系のメンテナンス剤を新規開発し事業の新たな柱にしたいと意欲的だ。

6



ファブラボ北加賀屋  
大阪市住之江区北加賀屋5-4-12  
コーポ北加賀屋107  
http://fablabkitakagaya.org/

7



株式会社上垣金属製作所  
東大阪市川田 4-8-36  
TEL.072-964-9814  
http://www.uks33.co.jp/

協働、そして情報共有。  
市民に開かれた新しいものづくり拠点！

私たちのライフスタイルにも影響を与えそうな「ファブラボ (FABLAB)」から目が離せない。今世紀初めから試みが始まったファブラボは、現在、世界50カ国に広がり、日本でも近年活動が開始された「市民工房のネットワーク」だ。今年4月には、関西初の拠点が北加賀屋に開設された。工房には3Dプリンター、レーザーカッター、CNCルーターが設置され、雑貨のような小物から家具などの大物まで、自分たち自身で学びながら作ることが可能。「企業でしか作れないと思っていた物が、いろんな分野の人たちと意見交換して試行錯誤を繰り返しながら作ることができ、蓄積された情報はネットワークを通じて世界中と共有される」と発起人の一人、大阪大学工学部研究科助教の津田和俊さんは語る。もう一人の発起人で現代美術家の白石晃一さんは「作る過程を人と人が共有するファブラボは、人を巻き込んで制作する私の作品と重なった」と熱く語る。会費を通じて運営にかかるランニングコストをシェアし、「羽ばたき飛行機作り」など楽しいワークショップも開催するなど、新しいものづくり拠点となっている。

生産品目は月約1千点！顧客のお墨付きは、  
徹底した品質管理と納期厳守から。

ピン類、シャフトといった産業機械の関節をつなぐ重要部品が主力のメーカー、株式会社上垣金属製作所。その精度や強度をクリアする高い技術力、提案力に加え、自社製品を徹底的に検査する姿勢が大手企業にも高く評価される。代表取締役の上垣守見氏は、大卒後に勤めた自動車部品メーカーでの経験が役立ったと話す。「注文から製造、販売までお客さんと直接仕事をさせてもらい、入口から出口まで関わって、大切なことが見えてきたんです」。ある時は、検査をクリアするため、受注した会社の検査係からチェックポイントを直接聞き出した。不良品には厳しい検査係が、丁寧に教えてくれたという。この経験が、完成品を切断し内部まで調べる同社の厳しい検査体制に活かされている。また、コンピューターを駆使した独自の工程管理システムで、効率アップと納期厳守も実現。今後の展望を、「従来の小サイズから中サイズの部品の比率を高めたい。海外戦略では、巨大で成熟しているアメリカ市場が魅力的。中国が、より高品質なものを輸出していく時代も見据えています」と語る眼は鋭い。



歴史に裏打ちされた技術で、  
未開拓のフィールドにチャレンジ！

特殊金属加工の分野で、中型から大型の特注品を多く手掛ける株式会社大福鉄工所。高い技術力と優れた設備力が要求される高硬度合金の加工を得意とし、関西国際空港や明石海峡大橋、台湾新幹線など、社会のインフラを支える基盤づくりにコミットしてきた。「大きなものを作る時はチームワークで乗り切る」と代表取締役の大福豊氏。大手からのニーズにも、地域の加工業者と連携を取り応えていく。

新分野への挑戦にも積極的だ。5年前からOWO(次世代型航空機部品供給ネットワーク)の会員として、航空機部分野への参入を目指している。さらに2012年には、大阪商工会議所のビジネスプラン発表会をきっかけに、福岡の産業医大と共同開発でAED(自動体外式除細動器)の気道を確保する医療器具の商品開発に着手。何度も試作を重ね、4個目でやっと完成した製品には、医療現場のお困り事をニッチなところでサポートしていきたいという大福社長の思いが込められている。業界のマーケットにどうアプローチをしていくかが当面の課題という。歴史と信頼に安住することなく、技術力をカタチにした商品開発へのチャレンジは続く。

株式会社大福鉄工所  
大阪市淀川区三津屋南 3-10-19  
TEL.06-6301-6687  
http://www.ofuku-iron.jp/

